

ICT を活用して、自己表現をしようとする態度の育成

HYOGO スクールエバンジェリスト 宝塚市立長尾小学校 東浦 裕也

本時の目標	校種・学年	小学校・2年、4年
<ul style="list-style-type: none"> ・ブラインドタッチにチャレンジする。 ・発表ノートの作成、提出等の基本的な操作を行う。 ・自分の気持ちや身の回りの出来事を伝えることに興味をもつ。 ・自分の気持ちや身の回りの出来事を伝える楽しさを感じる。 	教科・領域	通級による指導
	アプリ・ソフト	・SKY MENU (発表ノート)
	備考	

○本時の展開

	○学習活動 (◆指導上の留意点)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のスケジュール、めあてを確認する。 自分の気持ちや出来事を伝えよう。 ○「寿司打」、「プレイグラムタイピング」等のタイピング練習を行う。 ◆ホームポジションなどタイピングの確認を視覚的な絵や映像を用いて行う。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ SKY MENU の発表ノートで今の気持ちを選択して、提出する。理由を説明し、交流する。 ○ SKY MENU の発表ノートで「頑張っていること」などのテーマに対して、文章をタイピングして提出する。 ◆最初に、操作方法等を確認する。 ◆お互いの発表ノートを見て、感想を伝え合う。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○発表ノートを用いて作成と提出を行った感想の交流を行う。 ◆表現しやすい方法を見童自身が考える。


育成できる情報活用能力

◎タイピング力の向上により、紙に文章を書くより取り組みやすくなる。

育成できる情報活用能力

◎自分の気持ちの変化を記録していくことで、自分の感情変化のきっかけを知り、自己理解を深めることができる。絵の表情は相談して、選びやすいものにできる。

今日の気持ちは？



◎自分に合う自己表現方法を養うことができる。最初は答えやすい質問から始めることができる。

朝ごはんはごはんとパンとどっちがいいですか？

第一問 ごはん ・ パン

児童・生徒の感想
<ul style="list-style-type: none"> ・だんだんと流れが分かり、タブレットの準備を主体的にするようになった。 ・気持ちを選択した理由に最初は悩んでいたが、自分なりの気持ちの変化の理由を言えるようになった。 ・自分の身の回りの出来事を表現することは抵抗感が強かったが、タイピングが早くなるにつれ、文章量も増えた。

<情報活用能力の育成とその効果>

- ・児童の興味が強いタイピングを用いることで、苦手な自己表現活動に取り組むことができる。
- ・記録を蓄積することで、自分の文章の変化や気持ちの変化を確かめることができる。
- ・タイピングを習得することで、他の使い方も積極的にチャレンジすることができる。